

## 10間の Australia—特に mail 事情

桂 重俊

7月22日から8月1日まで(1997年) Australia に行つて来ました。26日からは Cairns (1986で人口5万の観光都市) Convention Center で Int. Conf. Magnetism (ICM1997) がありました。この会議に私が出たのは1982年の京都、1991年の Edinburgh に続いて3回目でしたが、今回は演題は出さず学会を機会とした観光旅行になってしまいました。せめて Melbourne の旧友 CJT のところでゼミでもしようかと思って連絡したのですが彼は大学は退職し、週1回は大学にでているが物理の研究はやめたということで改めて自分の年を感じさせられました。

23日から25日までは Sydney において harbor cruise および bus tour に参加しました。学会企画の pre conference tour です。Australia は原住民 Aborigine の住んでいたところを James (Captain) Cook により1770年発見されました。1788年1月26日(建国記念日) Arthur Philip が752人の流刑囚をつれて Sydney に上陸し、植民地の建設がはじまりました。(流刑囚といっても砂糖2ポンドの窃盗で7年の流刑にあったというような人たちであったということです。)1829年イギリスが Australia 全土の領有宣言を行い1901年 Australia 連邦が成立しました。その後金鉱が発見されて gold rush となりました。

この bus tour で Dresden の S.Kobe 氏と一緒にになりました。彼は1979年 Poland の Karpacz の winter school で私の宿舎を訪ねてきて、東独の研究環境のわるさ、西独の研究者に論文を送ることも出来ないということを訴えたのでした。2年前廈門で逢ったときはその嘆きはすっかりなくなったといって、computer graphics を駆使した美しい poster session を楽しませてくれたのでした。

ICM1997 は参加者750名うち日本人280名という状況でした。申し込みは受け付けられているのに abstract に載っていない人がいるなど organization の悪さが目立ちました。私自身も1月に registration fee と一泊のホテル代をカードで払っておき、2月に確認の FAX をいれておいたのに、出発5日前に入金がないからホテルの予約を取り消すというメールが来ました。FAX とメールを数回往復して ( r コマンドで打った返信はしばしば user unknown で戻ってきました。) 最後にはあと5時間以内に払わなければキャンセルといわれました。手が尽きて何もしないでいたところそれから2時間後に OK になりました。credit card の署名は日本語の方が真似されなくて安全だと言われてそうしていたのですが、真似もされない代わりに認識もされなかったというのが原因だったのかもしれませんが。

学会から telnet が使えることを期待していったのですが、実状は手書きで書いた英語の原稿を学会の secretary に渡すと彼女がうってくれる。そして1通\$5.00 とられるというシステムでした。

街で telnet および internet を service している所 (internet cafe) が数カ所ありました。そのうち二つを A および B とします。A は 11:00 - 13:00 および 17:00 - 21:00 に open で1台

のパソコンがあり、一人が使っており後で来いといわれました。日本語が読めるかどうかは分からないと言われ、あとは行きませんでした。B は数台のパソコンがあり英語 windows95 のが数台と日本語 windows95 のが 3 台ありました。後者により東北科学技術短期大学の home page はすぐみることができました (<http://www.cc.cstt.ac.jp>)。ところが telnet で mail は画面には出ましたが読めませんでした。Netscape Mail で読もうとしましたがこれも失敗しました。いつも日本人の学生が日本語の mail はこれで読んでおり、今日は回線の調子がわるいか発信側に問題があるのだと思うということでした。ちなみに B は A.J. さんと奥さんの R.M. さんが経営しているところで、奥さんは情報専門学校の正教員もしたことのある computer の専門家で、Cairns で home page を最初に開いたのはうちであるといっていました。

また Prof. T.K. がモデムつき東芝 Libretto を持ってこられたのですが Hilton Hotel から前記 B から接続できませんでした。ホテルの各室には modem 用コンセントがありホテルから \$5.00 で adapter を借りると modular jack がつなげられるようになっていました。接続できないのは modem の規格が日本と Australia で微妙に異なっている為であろうということでした。ちなみに 2 年前 Xiamen (中国、廈門) で行われた STATPHYS 19 のときは計算センターの 1 室を参加者に開放し、数十の端末から自由に mail が打てました。ただし telnet ではなく、発信者の address は全員共通で、返信はセンターの秘書が仕分けしてホテルに配達されるというシステムでした。

Sydney 博物館の建国当時を再現したビデオで全裸の Aborigine 女性をみた翌朝全く同じヘアスタイルと皮膚の色で、着飾った女性とホテルの朝食の席を隣り合わせました。前記 B の A.J. さんは 17 年前 Poland から豊かで治安のよい Australia にあこがれて移住したと言っていました。18 年前 1979 年は私が Poland に行った年でソ連の支配下の厳しさと不自由な経済状態は旅行者にもひしひしと感じられたのでした。私は流刑囚と鉱夫と原住民の子孫が世界一治安のよい豊かな国を作っていることに羨望を感じながらこの国をあとにしました。

三日にわたり internet と telnet について機器を貸与し、操作して頂いた A.J. さんと R.Y. さんに心から謝意を表して筆を擱きます。

桂 重俊

981 仙台市青葉区国見 3-4-25

T 022-219-2113 F 022-219-2115

katsura@cc.cstt.ac.jp

<http://www.asahi-net.or.jp/bv9s-ktr/>